急性増悪期治療の進歩

近畿大学医学部神経内科 宮本 勝一

KEY WORDS
●多発性硬化症
●急性期治療
●ステロイドパルス
●血漿浄化療法

はじめに

多発性硬化症(multiple sclerosis；MS)の急性増悪期治療は，従来と著変なく，高用量メチルプレドニゾロンを点滴静注するステロイドパルス療法(intravenous methylprednisolone；IVMP)が一般的である。IVMPが無効な場合や使用不可能な場合はセカンドチョイスの治療を行う。これらの治療方法は施設によって若干異なるが，本稿では標準的な治療方法について概説する。

Ⅰ．MSの急性増悪期治療の概要

MSの急性増悪期には副腎皮質ステロイド薬による治療を行う。一般的には，高用量メチルプレドニゾロンの静注療法，いわゆるIVMPを行う。IVMPは，MSとの鑑別に迷うことがある視神経脊髄炎(neuromyelitis optica；NMO)の急性増悪期でも同様に行うため，MSの急性増悪を疑うときには迷わずIVMPを行う。IVMPは短期的な症状増悪リスクを軽減させるが，長期的な予後改善効果は明らかではない。このため，症状が軽症で悪化のピークが過ぎていると推定できる場合や，患者希望によっては，治療せずに経過観察を行うこともある。一方，IVMPが奏効しない重症例や副作用のために施行できない場合には，血漿浄化療法を施行する(図)。免疫グロブリン大量静注療法(IVIg)は，他の治療が施行できない場合に考慮してもよいが，エビデンスが乏しく保険適用外である。

Ⅱ．ステロイド療法

1．臨床試験

IVMPは高用量のメチルプレドニゾロンを点滴静脈注射する治療法であり，多くのランダム化比較試験(randomized controlled trial；RCT)

Therapy for the acute exacerbation in MS.
Katsuichi Miyamoto(准教授)

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.